

国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの
メッセージ



2年間のソウル勤務を振り返って

富山県総合政策局国際課 主事 原田 典久

初の海外

2014年2月。翌年度からの派遣に向けた住居の下見のため、私は初めて韓国・ソウルの地に降り立ちました。それまでパスポートも持っておらず日本から出たことがなかった私は、まずマイナス10度を下回る想像以上のソウルの冬の寒さに衝撃を受けました。そして、何か温かい飲み物を買おうと立ち寄ったコンビニで、それなりに勉強したつもりの韓国語をほとんど聞き取ってもらえないことでまた衝撃を受けました。深夜でタクシーも捕まらず、やっとの思いで到着したホテルで「本当にやっていけるのだろうか」と途方に暮れたことを今も覚えています。

異国での仕事・生活

着任当初は文化や言語の面で驚きと苦勞の連続で、職場での電話応対にもビクビクする毎日でしたが、半年が経つ頃には独特の辛い料理にもすっかり慣れ、徐々に韓国での生活にも馴染み始めていました。これもひとえにソウル事務所の先輩方、同僚、現地スタッフの皆さんに公私にわたって助けていただいたおかげであり、今でも頭が下がる思いです。本当に感謝しています。

ソウル事務所では、北陸・中部地方の自治体が実施する日韓交流事業・観光PR事業のサポートや、JETプログラム参加者のOB組織（JETAA）の運営・活動の支援を主に担当していました。内外との調整も多く、仕事を進める上での日韓の考え方の違いに頭を悩ませることが多々ありました。

日本の仕事は「段取り八分」。綿密な根回し、事前準備、シミュレーションの下、万全の体制で業務にあたるためミスは少ないものの、進捗は遅くなりがちです。他方、韓国は「パッリパッリ（早く早く）」が口癖で、見切り発車の計画からトラブルが生じることもありますが、そこは対応の速さ・柔軟性でカバーし、気づけば大成功

に終わっていたというケースも多いです。

「郷に入っては郷に従え」とはよく言いますが、どちらが優れているということではなく、それぞれの立場をよく理解した上でまとまりそうなポイントを探っていくという姿勢が、海外での調整をうまくこなすコツであると学びました。こうした発見はまさに海外勤務ならではの発見だと思います。



在韓日本大使館主催レセプションでの自治体PRの様子（中央が筆者）

クレア派遣終了後

現在は、韓国・慶尚北道に事務局を置く国際機関（北東アジア地域自治体連合）に派遣され、日本・中国・韓国・モンゴル・ロシアの地方自治体間の国際交流業務に携わっています。職場に日本人は自分のみ、共通語は韓国語というアウェーな環境の中、クレア勤務で培った語学力、調整力、アテンド経験などを武器に孤軍奮闘する毎日です。また、クレア時代に築いた日韓自治体関係者の皆さんとの繋がりは今も続いており、会議で顔を合わせることや、仕事を進める上でお力添えをいただくこともしばしばです。

韓国勤務を総括できる日はもう少し先になりそうですが、クレアで得た経験やご縁を大切にしながら、残りの派遣期間を過ごしたいと思います。

プロフィール

- 現在の所属・役職：富山県総合政策局国際課 主事
（北東アジア地域自治体連合事務局派遣）
- 現在の業務内容：北東アジア地方自治体間交流の支援
- クレア時代の所属：
2013年4月～2014年3月 東京本部支援課 主事
2014年4月～2016年3月 ソウル事務所 所長補佐